

No.	テーマ	発言内容	対応
1	文言の整理	「気軽」「身近」「多様」は何を指すのかわかりにくくなる。	御意見を参考にする
2		「提供する」は市が直接実施する表現なので、使い方を検討したほうがいい。	御意見を参考にする
3		「地域」は人や事業によってイメージが違うので、認識の共有や使い分けが必要。	御意見を参考にする
4	スポーツの位置づけ	「(1) スポーツの位置づけ」は「スポーツの定義」という表現にするほうがいい。	P.4：修正
5		スポーツの例示に、アンケート結果からニーズの高い「アウトドアスポーツ」を追加してはどうか。	P.4：追記
6	スポーツとのかかわり	「する」「みる」「ささえる」「つながる」を並列ではなく、「する」「みる」「ささえる」を通して「つながる」という書き方にしてはどうか。	P.4：イメージ図を修正 P.27：基本目標の構成を変更
7	SDGsとの関係	17番目のグローバルゴールズが「つながる」の考え方と関連するので、「スポーツを通じたパートナーシップの形成」について記載してはどうか。	P.6：追記
8		各施策とSDGsの対応を示してはどうか。 17のグローバルゴールズか169のターゲットと結びつけるかの検討が必要。	第4章のなかで17のグローバルゴールズとの対応を示す
9	吹田市のスポーツの現状（グラフ等）	データを記載する際にはサンプル数（n）を記載しなければならない。	P.11～23：追記
10		主観的健康状態や体力に対する不安と運動の実施状況の因果関係の正当性は検討が必要。	グラフを削除
11		性別や年齢別の分析は、活用する意図がなければ削除すべき。	P.13：今後実施してみたいスポーツの男女別分類を削除
12	スポーツ推進に向けた課題の整理	課題の整理や基本目標は、その根拠となるデータや情報と結び付けるほうがいい。	P.24～25：背景や社会動向や各種データを踏まえた内容に修正 P.27：根拠をもとに整理した課題を踏まえた基本目標に修正
13		課題の整理については、複数に関連するものはリンクさせてもいい。	P.24～25：構成を変更し内容を修正
14		アンケート結果からは、50歳以上だけでなく40代から運動や健康づくりの意識を高める取り組みが必要ではないか。	P.24～25：構成を変更し内容を修正
15		「スポーツ実施率」「運動実施率」の文言整理が必要。	P.24～25：「スポーツ実施率」に統一
16	基本目標・施策	基本目標の見出しと説明文章について、目標を明確に記載し整合をとる必要がある。	P.27：基本目標を修正
17		「ライフステージに応じた」と「多様なニーズに応じた」は具体的な内容が重複するのではないか。	第4章で、子供や高齢者など「年代別の取組」と、障がい者やアーバンスポーツなど「ニーズへの対応」で切り分けて記載
18		「スポーツ活動の充実」と「スポーツ活動の支援」は具体的な内容が重複するのではないか。	基本目標及び施策を変更し、重複しないよう検討
19		競技スポーツについての記載が必要ではないか。	第4章のなかで競技スポーツの視点も含める
20		吹田市ならではの計画に向けて、吹田の魅力を表現する「SUITable」の具体例が記載できればいいのではないか。	御意見を参考にする

No.	テーマ	発言内容	対応
21	具体的な取組や事業	人材確保についてだけでなく、指導者などのフォローも必要ではないか。	第4章に記載
22		具体的な答えについての記載ができなくても、「協議の場」や「今後のあり方を検討する場」をつくるといった頭出しが必要ではないか。	第4章で検討
23		トップクラスではないが素晴らしいアスリートを市や企業や地域が支援し、ウィンウィンになる取組みができればいい。	事業実施にあたって参考にする
24		部活動については、「ささえる」ではなく「する」に分類する方がいい。	第4章のなかで、部活動を含む学校でのスポーツについては「する」に分類し、部活動の地域移行については担い手確保の観点から「ささえる」に分類
25		スポーツの魅力を伝える取組みをトップアスリートに率先して進めてほしい。	事業実施にあたって参考にする
26		トップアスリートの小学校等への訪問が増えてほしい。	事業実施にあたって参考にする
27		地域でボール投げができるような環境づくりが必要ではないか。	事業実施にあたって参考にする
28		施設は充実しているが、指定管理者と行政が協力しながらイベントを開催していく必要がある。	事業実施にあたって参考にする
29		指導者や指導力の不足に対して、指導力の高い人材の育成や招へいが必要ではないか。	事業実施にあたって参考にする
30		競技力をサポートし、目指したくなるチーム作りを支援することで、競技者がその後に指導者になるという好循環が大切なので、競技力の向上についても取り組むといい。	事業実施にあたって参考にする